

ともしび

心とともに繋がって



井上直之
(釋直道)



私がこの原稿を書いている現時点で、新型コロナウイルスに感染した方は日本中で四十万人を超え、古河市でも三百人近くの方がおられます。

まず、この感染症でお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表します。そして、今も病床にあつて苦しめられている方々に、心よりお見舞い申し上げます。

現在、ワクチンができて、新たな変異株が発見され、いまだにこの「分からない」未知のウイルスに私たちは大きな不安を抱えています。

そして、この長期にわたる自粛生活は経済的な損失を生んだだけではありません。差別や言葉の暴力、子どもへの虐待などの問題を生み、人の心まで変えてしまいました。

私も、一昨年から準備していた大きな行事やイベントが全て白紙となり、心に穴が空いた状態です。このようなときに、残念ながら

(伝染病)に苦しんでいました。そして、飢饉や殺し合いが絶えない中、数え切れないのちのバトンタッチがあり、今の私たちがここに生かされています。

今年の永代経は代表者のみで勤めたいと思いますが、仏さまのお慈悲に感謝させていただき、今後も皆さまの心とともに繋がっていきたく強く願っています。

おかげさまで、娘たちはすくすくと育ち、この春、長女は幼稚園の年長、次女も幼稚園生となります。ついこの間まで赤ちゃんだったのに、と思うほど、子どもの成長はあつという間です。

コロナ禍で大変な状況ですが、これからもご縁の皆さまと力を合わせてお寺を守っていきたく思っています。

皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

今後の行事について

昨年の永代経から、お寺の法要や行事が延期や中止となり、厳しい状況が続いています。

ワクチン接種が始まるとのことですが、まだ先が見えず、夏が終わる頃までは自粛を続けたいと考えています。

今年度から開催時期を春休み中にしたと考えていた「花まつり」、四月二十九日の「宗祖降誕会」、六月二十三日の「あじさい忌」は中止とさせていただきます。

九月中旬に予定されていた「敬老会・恵信尼公法要」も難しいかもしれせん。

十月の第四土曜日と日曜日の「報恩講」は、きちんとお勤めしたいと願っています。

前住職の命日の頃(十一月の第二日曜日)、歴代住職の法要を勤めたいと計画しています。

楽しみにされている方が多い、十二月初旬の「成道会法要・バザー・コンサート」につきましては、境内での飲食は控えるというかたちで開催できないものかと、相談しています。

先が見えない状況ですが、門信徒の皆さまには世話人を通して連絡させていただきたく、行事開催の時にはご参加くださいますよう、よろしくお願ひ申しあげます。(由真記)

永代経のこと



井上 由真

昨年は、直前になって延期とし、五月二十一日(親鸞聖人の降誕会)に、代表者のみでお勤めした当山の永代経でした。

「永代経」とは「永代読経」の略です。お寺の本堂に永代にわたって(いつまでも)お経(仏さまの教え)が子々孫々に続いていきますようにという願ひが込められています。

祖先から受け継がれてきた大切な教えを子や孫へと繋いでいく法要です。毎年三月の第一日曜日に、皆さまと一緒に大きな声で「阿弥陀経」のお勤めをし、天ぷらや五目寿司のお齋をいただくことは、私の楽しみでした。

コロナ禍、大きな声を出すことや、仲良く食事をする事に気がつかうようになりました。

仲良しの坊守さんが「お寺は今まで三密を目指してきたのに……」と話されました。お茶を飲んで語り合い笑い合う、当り前だと思っていたことができなくなりました。

会えなくなったお寺の仲間のことを心配する方々の声を聞きながら、日常を取り戻せる日が早く来ることを願っています。

「お念仏の道場であるお寺が永きにわたって存続し、お念仏の教えが繁栄し続けるように」との願ひがこめられた「永代経」です。代表者の参拝ですが、皆さまの分まで一生懸命お勤めさせていただきます。

「どんなことがあっても、あなたを見捨てることなく、必ず救う阿弥陀如来という仏さまがおられるのですよ。そして、あなたに向かって南無阿弥陀仏と喚びどおしに喚んでくださっているのですよ」

私がお経により、養われ育てられているのです。そしてそのご縁を作ってくださったのが先祖であり、今、私がこのご縁に出偶えたのと同時に、子孫も出偶えますようにとの思いで読経させていただきます。

教化団体の現状

〔仏教壮年会〕

コロナ禍の一年間、壮年会は休むことなく活動を続けました。

マスク着用、消毒、三密等に気を配りながらの定例会。飲食店での忘年会を中止した以外は、元氣よくお寺を支えてくださいました。

年末には、古い時代からのゴミを片付けたり、境内の落葉掃き等、壮年会ならではの活躍ぶり、コロナの憂鬱を吹き飛ばしていただきました。

恒例の成道会バザーが中止となったため、竹細工の作品を制作したり、焼きそばの模擬店ができなかったことが残念でした。

今年度も昨年同様、月に一度の定例会、行事や法要の準備・運営に頑張ってくださいます。

ともに働くことでの楽しさ、新しい仲間ができる喜び、入会希望の方をお待ちしています。

〔仏教婦人会〕

家族に高齢者や病氣の方がいるという理由で、定例会を休んだ一年間でした。

主な活動である、行事のお齋作りも、行事がなくなったことで五月二十一日の永代経を最後にお休みにしていました。

在宅で人に会うことが減って、気持ち沈んではいないか、仲間を心配する声が届いています。

会長と副住職が話し合い、四月から定例会を再開することを決めました。

これまでは、美味しいものをいただきながらお茶を飲む、そんな定例会でしたが、しばらくの間は飲食をやめ、会所を本堂にして、勤行と法話の集いとなります。

4月16日(金)午後1時半

宗願寺本堂にて

勤行「らいはいのうた」

法話「再会の喜び」

副住職 釋由真

今まで通りとはいかないと思いますが、少人数でも一緒にお勤めをし、仏さまのことを考える時間を持ちたいと思います。

会員以外の方でも、興味のある方はどうぞご参加ください。

〔宗願寺合唱団〕

合唱団はマスクやフェイスシールドを着用し、三密に気を配りながら、月に一度の練習を欠かすことなく精進してきました。

住職が導師と指揮をすることに なっていた十一月十六日のご本山での「音御堂」もこちらからの参加は中止となり、寂しい一年間でした。

本堂での代表者参加の法要では仏教讃歌を歌いました。

今年も先のことは未定ですが、集会所での練習は続けていきます。入団希望者をお待ちしています。

彩弥と弥那との日々

井上明寿子



彩弥(右) 弥那(左)

先日、弥那が風邪をひきました。さっそく病院に連れて行きました。が、受診のときに舌を押さえて喉を見られるのを嫌がり、その後「きようべろおすの、しない？」と必死で確認するようになりました。

大丈夫だよと言われながらも、毎回舌を押さえられ、納得のいかない顔をする娘でしたが、大事には至らず、無事に落ち着いていました。

また、彩弥も最近まで歯科医院に通っていました。最初は口を開けるのも怖がり、嫌だと抵抗していましたが、二回、三回と通ううちに慣れて、無事に治療を終えました。

そうこうしているうちに、今度は私が長年悩まされていた外反母趾で通院することになりました。

足を矯正するのですが、もともと痛みが我慢できなくなって来院した訳です。気づいたら「治療は大丈夫ですか？痛くないですか？」と娘たちと同じことを言っていました。

……そう気づいて、少し反省しました。

笑い話になってしまいましたが、「病氣やケガ」と「治療や回復」の間に挟まれたときの心の持ちようというのは難しいものです。

私たちはお釈迦さまのように、病氣や未知の変化をありのままに受け入れることができませぬ。

また、元氣なときでも常に充足を求めて自分のことばかり考えています。

でも、み教えは私たちの心身の状態に関わらず、常に変化することはありません。み教えを日常で実感したとき、私は暖かい気持ちになります。

先の見えない不安や欲に揺れ動く日々の中、手を合わせ、お念仏申すことの大切さを忘れずにいたいと思います。

編集後記



毎年、永代経前の二月になると、特に父のことを思い続けることが多いです。

二月十八日が誕生日だからです。プレゼントを何にしよるか、考えたものでした。父亡き後、私が高校生の頃にクロスステッチで刺しゅうして贈ったハンカチが大切にしまわれているのを見つけて泣いてしまいました。

仏教を学んで、感動して、その味わいを父と分かち合いたかったと思うことがあります。

でも、父が亡くなるまで、お寺に生まれたことを真剣に考えていなかった私は、境内のお掃除をして、お齋を作って、ご門徒さんと仲良くしていれば良い、そんな程度の思いしかなかったのです。

愚かでした。その愚かな私を目覚めさせるために、父は命がけで仏さまに出偶わせてくれたのだと、今では感謝しています。

家族や友人の死は、悲しみとともにこの私を育ててくれる大切なご縁なのだと、永代経に思います。

合掌



発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
(由美子)

カット・大建弘子
(印刷所・阿部印刷)

宗願寺ホームページ



宗願寺ウェブサイトURL
<https://souganji.com/>